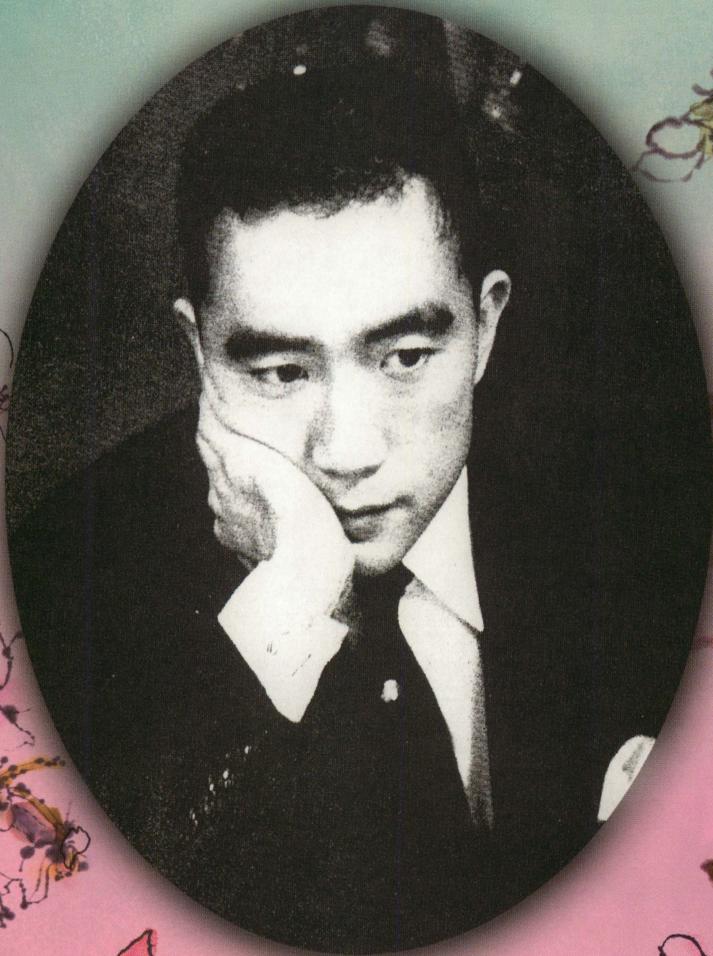


昭和に生きた天才—— 三島由紀夫との対話

みやび
三島由紀夫



田中千世子監督作品

プロデューサー◎鈴木隆一

すすきしゅんいち

制作◎フィルムヴオイス

出演◎平野啓二郎

関根祥人

野村万之丞

斬飛

ホイクルンシナルソン

松下恵

岡泰正

坂手洋二

バロク・B・マールトン

ラウラ・テストヴェルデ

柳幸典

撮影◎川上皓市

録音◎中山隆匡

美術◎星壁恵子

編集◎富田伸子

音楽◎梅林茂

題字◎中村洋子

協力◎出雲啓 波多野真矢

特別協力◎金閣寺

円照寺

社団法人観世会

新潮社

◎みやび 三島由紀夫製作委員会

配給◎バンドラ

彼はシャイで純でキマジメな気取り、理想とカンペキのはざまで、はやまって死んだのである
彼の頭脳と心のボタンが一つ、はずれていたらセイフだったのに
が今世紀人必見のよき三島像です

白石かずこ(詩人)



©遠崎智宏

三島由紀夫って誰？
三島由紀夫ってなにもの？
いちはやくノーベル賞候補になつた世界的な文豪。
切腹して四十五歳の人生に終止符を打った行動家。能と歌舞伎を愛し、古代ギリシアの美に憧れながらポドレールやオズカー・ワイルドに魅了された批評家。そしてポディビルと剣道で鍛錬を重ねた肉体派——。
どれが本当の三島由紀夫？
ドキュメンタリー映画『みやび三島由紀夫』は生前の三島を知る人々ではなく、今世紀を生きる若い世代のアーティスト・文化人十一人からそれぞれの三島像を浮かび上がらせる。小説家の平野啓一郎が「金閣寺」を通して対話する相手は三島だ。劇作家の坂手洋二や演出家のゲンナルソンが対話する相手も三島。そしてこの映画をご覧になるひとりひとりもまた内なる三島と対話せずにはいられない。
監督は映画評論家で能のドキュメンタリー『能楽師』を作った田中千世子。撮影の川上皓市、音楽の梅林茂をはじめとして日本映画界を代表する豪華スタッフがワキをかためた。

＊コメント＊

三島由紀夫が死んだときわたしは20歳で、自分の失恋にかまけていたので心動かされなかった。

そんなわたしにコメントを書かせる田中千世子は無邪気である。それは、故・野村万之丞に「へんなポエティックなおじさん」と言わせることにも顕れる。坂手洋二に「自意識が強すぎて」と批評させることにも顕れる。若い平野啓一郎にうんちくを傾けさせることにも顕れる。他者の意見をおおらかに収集して、彼女は三島を独占するのである。

——— 内海陽子(映画評論家)

とかく昨今のドキュメンタリーは、しみつたれたり、もしくはプライベートなものが多いなか、これは目も鮮やかな纏綿たる作品!

——— 伏屋博雄(メールマガジン「neoneo」編集長)

死んじゃった三島は35年間に外国人、そして若者に着々とその「文学」を広げているのに、オレたち(団塊世代)は思い入れたっぷりの「私の三島由紀夫」像をそれぞれ胸に仕舞い込み、35年間冷凍保存しているだけなんじゃないか？「三島由紀夫」はオレたちの「三島」像より、ずっと複雑で、立体的なのだ。

——— 林譲(日経PR)

三島由紀夫が切羽詰った心境になった背景は、このドキュメンタリーに登場する人々を外国人と日本人に分けて、それぞれの印象を反芻するだけで推測がつく。二十代から麻薬に耽溺し、三十代はじめて妻を殺して自殺したハンガリー人作家、チャート・ゲーザと三島との共通点を指摘した日本在住のハンガリー人作家。発する言葉のひとつひとつが至福の瞬間というぐらい楽しそうな中国人の学者先生。日本に地唄舞を習いに来ているアイスランド人の演出家。みんな筋金入りの知識人の剛毅さを感じさせる。

——— 増田悦佐(証券アナリスト)

＊三島由紀夫の代表作＊ 全集で読むか文庫で読むか、古書店で単行本を探すのも粋———

- 小説 「花ざかりの森」「盗賊」「仮面の告白」「愛の渴き」「禁色」「潮騒」「金閣寺」「鏡子の家」「午後の曳舟」「剣」「豊饒の海」4部作＝「春の雪」「奔馬」「暁の寺」「天人五衰」
- 戯曲 「近代能楽集」＝「邯鄲」「卒塔婆小町」「弱法師」他 「鹿鳴館」「薔薇と海賊」「熱帯樹」「十日の菊」「黒蜥蜴」「サド侯爵夫人」「わが友ヒットラー」
- 評論 「アポロの杯」「文章讀本」「太陽と鉄」「葉隠入門」「小説とは何か」「文化防衛論」



助監督◎田中文人 撮影助手◎伊藤潔/灰原隆祐 橋本彩子/新家子美穂/水野滋人/二階堂悠紀 録音助手◎永口靖/岩丸恒/小宮元/吉田憲義 ネフ編集◎石川歩 スチル◎遠崎智宏 トランペット◎加藤聡 特別協力◎金閣寺/円照寺/社団法人観世会/新潮社/観世能楽堂/関能会/コースケ事務所/学習院初等科/兵庫県立星陵高等学校/兵庫県立舞子公園/神戸フィルムオフィス/橋光館/藤田三男編集事務所 協力◎エコ・マガジン「ソトコト」/柳スタジオ/テラスりばあさいと/筑紫理左(壁画)/下北沢ザ・スズナリ/株式会社東京現像所/報映産業株式会社/株式会社ナック/土本典昭/土本基子/日本照明株式会社 富田編集室/マリンポスト/野田有笑/福島音響/EX Ltd./関口久美子/里見勉/渡辺享 デザイン協力◎平野典子 ◎「みやび」三島由紀夫|製作委員会 配給◎バンドラ

引用文献◎「決定版 三島由紀夫全集」(新潮社) 「三島由紀夫の死 高校生の発言」(恵地日出夫編 万里社) 写真提供◎斎藤康一(2点) 参考図書◎「宋元戯曲考——」(王国維 著・井波峻一訳注 東洋文庫 平凡社) 能「笛経」替之型 第十回花祥會(平成十六年五月五日 観世能楽堂) 燐光館公演「だるまがころんだ」(平成十六年三月三日下北沢ザ・スズナリ) www.pan-dora.co.jp

10月1日(土)より豊饒なるモーニングショウ

前売…1200円/当日…1500円/シニア…1000円 ■ミニシアター回数券も使えます
渋谷駅南口下車2分/JTB前さくら通り上がる TEL:03-3461-0211 www.eurospace.co.jp

ユーロスペース
連日10:30

